

編さん作業から新しく見えてきたもの

01 向島で博覧会を開催

尾道駅前から対岸の向島を望むと、灯台の立つこんもりとした丘陵、「小歌島」があります。現在は向島と陸続きになっていますが、かつては独立した小さな島でした。村上海賊以前の古い海賊の歴史に始まり、江戸時代には畑地として利用され、明治時代になると造船所が設置されるなど、興味深い歴史に彩られてきました。

大正13(1924)年には、7月20日～9月20日までの会期中、帝国博覧会協会(東京)の主催により、「瀬戸内海勸業博覧会」が開催され、島内には博覧会ならではの多種多様なパビリオン施設が並びました。

これまで、この博覧会については、既刊の地元史を記録する諸文献には記載が見当たらず、開催を記念して発



行された絵はがきのみが残っているだけでした。しかし、今回の市史編さんにあたり、広島地方紙の一つであった『芸備日日新聞』を読み解いていた過程で、小歌島での博覧会を報じる記事を発見。これにより、主催者や開催時期等、当時の詳しい情報を明らかにすることができました。(写真は記念絵はがきの一部)



▲芸備日日新聞(呉市文化振興課提供)



▲「出品館」、「参考館」など産業奨励と振興を目的とした勸業博覧会らしいものから、歌劇団による「演芸館」などアトラクション的なものまで幅広くあったことが伺えます。

02 明治時代の広告チラシ 多量の「引き札」を発見



平成30年、尾道商人・大藤忠兵衛の茶園(別荘庭園)の土蔵に眠っていた旧蔵資料が、市史編さん委員会事務局へ寄贈されました。大藤氏は明治期に尾道市議会副議長、尾道商業会議所議長も務め、尾道町時代(明治31年以前)の行政文書群や、当時の広告チラシである「引き札」101種136枚など、多くの貴重な資料が発見されました。

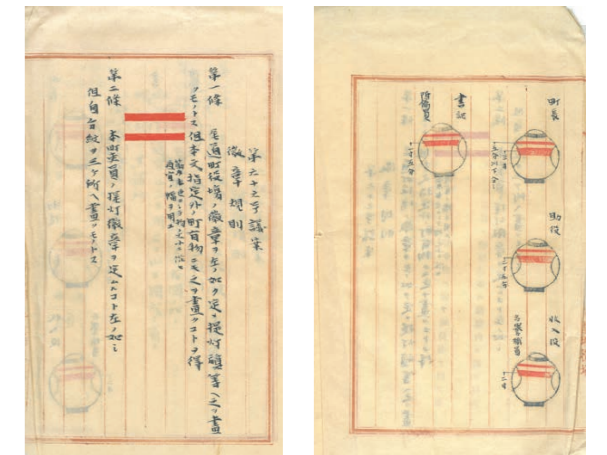
江戸、明治期に、商家や問屋などが店の宣伝、セール、

開店や年賀などのあいさつで配布した「引き札」。図案・意匠の美しさから、美術作品としても取り扱われる一方で、写真が貴重であった当時の様子を伺うこともできます。右上、牡蠣料理店の引き札では、尾道水道を進む北前船と鉄道の姿が描かれ、さまざまな交通手段が行き来する商都・尾道の活況を察することができます。

現在の市章の源流も

尾道町時代の行政文書の中には、市章(市のシンボルマーク)の原形となる町章に関する規則が図案入りで示されています。

明治24(1891)年の議案には、徽章規則として尾道町役場の徽章が定められています。赤色二本線は現在の市章とほぼ同一ですが、線の幅が二本とも均一という点が今とは異なります(現在の市章は下が太い)。また、当時の町長や助役らが用いた提灯にも徽章のラインが入り、役職によって太さが微妙にわかれています。



時代の証人が眠っていませんか?

古文書や古写真(写真絵はがきを含む)、古地図、尾道の話題を報じる古新聞のほか、無形の伝承(地域に伝わる言い伝えや独特な習慣、祭礼芸能等)など、幅広い分野で尾道市に関わる資料を収集しています。提供して下さる方はご連絡ください。※史料については、複製(写真撮影・コピー)を取らせていただくのみで、現物は速やかに返却します。

市史編さん委員会事務局 (☎0848-38-9359/平日8:30~17:00)

文化財編【上巻】好評発売中

記念すべき1巻目は、建造物から史跡・名勝・天然記念物を各分野の専門家の手でまとめた、決定版・保存版となる一冊です。

2,700円 販売場所 文化振興課、市史編さん委員会事務局 ※自宅への郵送も可(別途送料が必要)。詳しくはお問い合わせください。



まちの歴史を伝える「市史編さん地域協力員」

市史編さんを地元の側からサポートする存在として、御調から瀬戸田までの各地域に配置されているのが「市史編さん地域協力員」です。今回の新たな市史編さんの機会に、今一度自分たちの地域・民俗・文化を見つめなおし、記録し、伝えていこうとの趣旨で、協力員発での自主的な歴史編さん作業が各地域で沸き起こっています。今回、御調地域での作業に携わっている住貞義量さんに、その思いを聞きました。



住貞義量さん

市史編さんに携わる前から、御調町の歴史をひも解いてきた住貞さん。「知らないことを知って、それをどう伝えていくか、それが楽しみ。新しい発見をした時が一番嬉しい。」と話していました。

「みあがり」名称の初出資料を発見

御調で踊りつがれている「みあがりおどり」。その「みあがり」という呼称は、昭和35(1960)年に制作決定した、町民の歌「御調音頭」の歌詞中に「みあがり太鼓」として表現されています。

一説には、「みあがりおどり」は、足利尊氏が尾道に参籠した折に兵士を集めるために踊った際、「宮に参る」「都に上がる」ということから名づけられたとも、その時代より古いのではないとも言われています。

しかし、近年、御調町徳永の個人宅の襖の裏張りから、『宮上行列人別』という寛保年間(1741~1744)の文書が発見され、この文書に「宮上」という文字を見ることができました。

お宮へ参るので「宮上」と言われていたかは不明ですが、この資料の発見により、少なくとも江戸時代からこの呼称が使われていたことが裏付けられました。



市小学校(現在の御調中央小学校) 昭和15(1940)年 紀元2600年紀元奉祝式での写真「太鼓おどり」と記される。